

沿革

1. 瀬戸内市消防本部の沿革

昭和48年	7月	邑久地区消防組合設立協議会を設置。
	12月	邑久消防組合設置許可申請。
昭和49年	4月	邑久消防組合設立許可。(岡山県指令地第2号)
	〃	消防本部及び消防署設置についての政令指定を受ける。
	〃	消防職員15名を採用。
	5月	連絡車1台購入。
昭和50年	6月	邑久消防組合消防本部、邑久消防署の業務を開始。
	3月	日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受ける。
昭和50年	4月	消防職員7名採用し、総員22名となる。
	〃	救急業務開始。
	5月	邑久消防組合消防本部、邑久消防署庁舎完成。
	7月	消防ポンプ自動車1台購入。
	〃	無線中継局舎完成。
	10月	無線局開局。
昭和51年	3月	岡山県共済農業協同組合連合会より救急車1台寄贈を受ける。
	4月	消防職員5名採用し、総員27名となる。
	6月	小型動力ポンプB-3級購入。
	7月	化学車1台購入。
昭和52年	4月	消防職員5名と一般職員1名採用し、総員33名となる。
	7月	日本消防協会より広報車1台寄贈を受ける。
	10月	消防ポンプ自動車1台購入。
	〃	牛窓分駐所庁舎完成。消防職員8名、消防ポンプ自動車1台、救急車1台を配備。
	12月	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
昭和53年	2月	日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受ける。
	4月	消防職員9名採用し、総員42名となる。
	9月	日本消防協会より可搬積載車1台寄贈を受ける。
	10月	長船分駐所庁舎完成。消防職員8名、消防ポンプ自動車

		1台、救急車1台を配備。
昭和54年	3月	日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受ける。
	〃	消防職員1名退職し、総員41名となる。
	4月	消防職員3名採用し、総員44名となる。
	9月	日本防火協会より予防広報車1台寄贈を受ける。
昭和55年	4月	消防職員1名採用し、総員45名となる。
	9月	日本消防協会より可搬積載車1台寄贈を受ける。
昭和56年	2月	岡山県共済農業協同組合連合会より救急車1台寄贈を受ける。
	4月	小型動力ポンプC-1級購入。
	9月	日本消防協会より指令広報車1台寄贈を受ける。
昭和57年	7月	消防職員1名退職し、総員44名となる。
昭和58年	8月	日本消防協会より救出救助用資器材搬送車1台寄贈を受ける。
昭和59年	4月	緊急連絡車1台購入。
昭和60年	2月	邑久消防組合敷地拡張造成工事をする。
	8月	邑久消防組合敷地購入。
	10月	15mはしごバスケット付消防ポンプ自動車購入。
	12月	岡山県共済農業協同組合連合会より救急車1台寄贈を受ける。
昭和61年	10月	消防庁舎増改築工事竣工。
昭和62年	3月	消防庁長官表彰 竿頭綬を受賞する。
	8月	邑久消防組合敷地購入。
	9月	日本消防協会より指令車1台寄贈を受ける。
	〃	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車1台寄贈を受ける。
	10月	照明付救助工作車購入。
	12月	日本自動車工業会より救急車1台寄贈を受ける。

昭和63年	8月	邑久消防組合敷地購入。
平成元年	3月	邑久消防組合訓練場造成完成。
	〃	消防職員1名退職し、総員43名となる。
	4月	消防職員2名採用し、総員45名となる。
	5月	連絡車1台購入。
平成2年	1月	日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受ける。
	9月	日本防火協会より予防広報車1台寄贈を受ける。
平成3年	3月	消防職員2名退職し、総員43名となる。
	4月	消防長、邑久町役場より出向し、総員44名となる。
	5月	連絡車1台購入。
	12月	ISDN119番2台設置。
平成4年	2月	日本損害保険協会より救急車1台寄贈を受ける。
	3月	消防職員1名退職し、総員43名となる。
	4月	消防職員3名(内1名は女性消防士)採用し、総員46名となる。
	10月	消防ポンプ自動車1台購入。
	〃	今城地区119番電話回線切替え。
平成5年	4月	消防職員2名を採用し、総員48名となる。
	〃	臨時職員を1名採用する。
	〃	一般職員から消防職員(女性消防吏員)に任命する。
	9月	臨時職員1名退職する。
	10月	消防ポンプ自動車1台購入。
	11月	新消防庁舎の敷地造成起工。
平成6年	3月	新消防庁舎の敷地造成完成。
	4月	消防職員2名採用し、総員50名となる。
	〃	臨時職員1名採用する。
	5月	邑久消防組合消防本部、消防署新庁舎及び防災センター起工。
	8月	邑久町虫明 横山春松氏より救急車1台寄贈を受ける。

平成7年	1月	兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）が発生し、神戸市へ応援活動。
	3月	邑久消防組合消防本部、消防署新庁舎及び防災センター完成。
	3月	通信指令設備新設（総合指令台Ⅰ型、無線通信設備、気象観測装置、支援情報表示盤、非常用指令設備、録音装置、職員出退表示、電話交換機）
	〃	邑久消防組合20周年記念式典及び新庁舎完成落成式典。
	4月	新消防庁舎へ移転、防災センター業務開始。
	〃	消防職員2名採用し、総員52名となる。
	〃	防災通信ネットワーク完成、運用開始。
	9月	臨時職員1名退職。
	10月	臨時職員1名採用する。
	11月	旧消防庁舎解体工事完了。
	12月	訓練塔完成（鉄筋コンクリート造・5階建）
	〃	消防職員1名退職し、総員51名となる。
平成8年	4月	消防職員3名採用し、総員54名となる。
	5月	資機材搬送車（軽四輪車）1台購入。
	8月	可搬積載車1台購入。
	10月	消防職員委員会発足。
	〃	水槽付消防ポンプ自動車1台購入。
12月	岡山県共済農業協同組合連合会より救急車1台寄贈を受ける。	
平成9年	1月	消防職員1名退職し、総員53名となる。
	3月	消防長退任・職員1名退職し、総員51名となる。
	4月	消防職員1名採用し、総員52名となる。
	〃	消防長、再任用され、総員53名となる。
	〃	救急救命士2名誕生する。
	7月	消防職員1名退職し、総員52名となる。
平成10年	4月	消防職員1名採用し、総員53名となる。
	〃	岡山県災害医療情報システム設置、運用開始。
	〃	救急救命士3名となる。
	11月	移動体通信119番転送、受信装置設置、運用開始。

平成11年	2月	高規格救急車1台購入。
	3月	消防長退任・職員1名退職し、総員51名となる。
	4月	消防職員1名採用し、総員52名となる。
	〃	消防長就任、総員53名となる。
	〃	救急救命士4名となる。
	〃	高規格救急車、運用開始。
平成12年	12月	コンピューター西暦2000年問題警戒体制をとる。
	4月	消防職員1名採用し、総員54名となる。
	〃	救急救命士5名となる。
	8月	日本損害保険協会より化学車1台寄贈を受ける。
平成13年	11月	指揮車1台購入。
	3月	日本消防協会より司令車1台寄贈を受ける。
	〃	消防庁長官表彰 表彰旗を受賞する。
	4月	救急救命士6名となる。
	5月	連絡車1台購入。
	6月	邑久郡防災広域ネットワーク運用開始。
	8月	資機材搬送車1台購入。
平成14年	〃	可搬積載車(軽四)1台購入。
	3月	日本自動車工業会より高規格救急車1台寄贈を受ける。
	〃	消防職員1名退職し、総員53名となる。
	4月	職員定数条例の改正により定数68人となる。
	〃	消防職員4名採用し、総員57名となる。
	〃	救急救命士7名となる。
平成15年	〃	連絡車1台購入。
	4月	消防職員5名採用し、総員62名となる。
	〃	救急救命士8名となる。
平成16年	6月	消防職員1名退職し、総員61名となる。
	3月	消防職員1名退職し、総員60名となる。
平成16年	〃	消防ポンプ自動車1台購入。
	4月	消防職員5名採用し、総員65名となる。
	〃	救急救命士9名となる。
	7月	消防職員1名退職し、総員64名となる。

平成17年	11月	瀬戸内市発足に伴い、瀬戸内市消防本部となる。
	〃	瀬戸内市から職員1名配属され、総員65名となる。
	〃	瀬戸内市より連絡車1台寄贈を受ける。
	12月	消防職員1名退職し、総員64名となる。
	〃	救助工作車1台を更新。
	1月	消防職員1名退職し、総員63名となる。
	4月	消防職員5名採用し、総員68名となる。
平成18年	〃	救急救命士10名となる。
	10月	長船分駐所の増・改修工事完了。
	11月	高規格救急車1台購入。
	12月	携帯電話からの119番直接受信開始。
	3月	消防職員1名退職し、総員67名となる。
	4月	消防職員2名採用し、総員69名となる。
	〃	救急救命士11名となる。
平成19年	12月	消防職員1名退職し、総員68名となる。
	1月	はしご車1台を更新。
	3月	消防職員1名退職し、総員67名となる。
	4月	消防長、就任し総員68名となる。
	〃	消防職員1名採用し、総員69名となる。
	〃	救急救命士12名となる。
	5月	瀬戸内市消防団より消防ポンプ自動車1台移管。
平成20年	12月	消防職員1名退職し、総員68名となる。
	3月	消防職員2名退職し、総員66名となる。
	4月	消防職員1名採用し、総員67名となる。
	〃	救急救命士13名となる。
平成21年	〃	救急救命士13名となる。
	3月	消防長退任、消防職員2名退職し、総員64名となる。
	4月	消防職員4名採用し、総員68名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	救急救命士14名となる。
平成22年	11月	高規格救急車1台購入。
	3月	牛窓分駐所CD-I消防ポンプ自動車1台更新。

平成23年	〃	高機能指令センター統合型指令装置更新整備。
	〃	消防職員1名退職し、総員67名となる。
	4月	消防職員2名採用し、総員69名となる。
	〃	救急救命士15名となる。
	7月	消防職員1名退職し、総員68名となる。
平成24年	3月	東日本大震災が発生し、宮城県多賀城市へ応援活動。
	〃	消防職員1名退職し、総員67名となる。
	4月	消防職員2名採用し、総員69名となる。
	〃	岡山市消防局と人事交流し、職員1名を相互に派遣する。
	〃	救急救命士16名となる。
平成25年	3月	消防職員1名退職し、総員68名となる。
	4月	消防職員1名採用し、総員69名となる。
	〃	救急救命士17名となる。
平成26年	11月	全国共済農業協同組合連合会岡山県本部より、高規格救急車1台寄贈を受ける。
	3月	消防職員1名退職し、総員68名となる。
	〃	岡山市消防局と人事交流を終了する。
	4月	消防職員1名採用し、総員69名となる。
平成27年	〃	救急救命士17名となる。
	3月	消防長退任し、総員68名となる。
	〃	瀬戸内市職員1名市へ帰職し、総員67名となる。
	4月	消防救急デジタル無線運用開始。
	〃	消防職員2名採用し、総員69名となる。
	〃	消防長就任する。
平成27年	〃	救急救命士18名となる。
	8月	豪雨による広島土砂災害が発生し、安佐南区へ応援活動。
	3月	消防職員1名退職し、総員68名となる。
	4月	消防職員1名採用し、総員69名となる。
平成27年	〃	岡山市消防局と人事交流し、職員1名を相互に派遣する。
	〃	救急救命士19名となる。

平成28年	4月	岡山県消防学校と人事交流し職員1名を相互に派遣する。
	〃	救急救命士20名となる。
	〃	熊本地震が発生し、熊本県益城町へ応援活動。
平成29年	3月	消防職員2名退職し、総員67名となる。
	4月	消防職員5名採用し、総員72名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	岡山市消防局と人事交流し、職員1名を相互に派遣する。
	〃	救急救命士22名となる。
	〃	岡山県消防防災航空隊へ1名派遣する。
	10月	消防職員1名退職し、総員71名となる。
平成30年	3月	消防職員5名退職し、総員66名となる。
	4月	消防職員6名採用し、総員72名となる。
	〃	救急救命士23名となる。
	7月	平成30年7月豪雨災害が発生し、倉敷市真備町へ県下消防相互応援協定に基づく応援活動。
平成31年	3月	消防職員2名退職し、総員70名となる。
	4月	消防職員6名採用し、総員76名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	救急救命士24名となる。
令和元年	6月	消防職員1名退職し、総員75名となる。
令和2年	3月	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車1台購入。
	〃	消防職員8名退職し、総員67名となる。
	4月	消防職員6名採用し、総員73名となる。
	〃	岡山県消防学校へ1名派遣する。
	〃	救急救命士26名となる。
	12月	日本損害保険協会より、高規格救急車1台寄贈を受ける。
令和3年	3月	消防職員3名退職し、総員70名となる。
	4月	消防職員3名採用し、総員73名となる。
	〃	消防長就任する。
	〃	救急救命士25名となる。